

株式会社増渕組 大谷川上流第7・8・9床固改築工事

(工期：平成25年4月16日～平成26年3月31日)

現場代理人 むらかみこうじ ○村上光治

監理技術者 なかだけいじ 仲田啓二

キーワード 「第三者対策」・「土石流対策」・「重機災害」



1. はじめに

本工事は日光市細尾地先（馬返しの公衆トイレ前）の大谷川にある堰堤を自然と調和させ景観が良くなるよう現地採取の巨石等で造型する工事です。

現場は中禅寺湖から落ちる日光華厳滝の下流に位置し、河川幅で流水路が25mと比較的狭い河川であり、又高低差が大きく上流部での降雨ですぐに河川水量が増水し、鉄砲水や土石流の危険性があり、台風など一旦豪雨があれば災害が起こる可能性があります。

又、観光地のすぐ近くが工事箇所ということもあり、紅葉見物客など第三者が多く現場災害のほかに一般者との接触事故なども重要と考えました。

作業現場においては、施工時期の関係から作業班を増やすこととなり、混在作業から発生する災害、特に重機による災害対策と巨石張積時の石の取扱いも手足元を挟みやすいことから、重機災害と重量石の取扱いを本工事の重点安全管理項目としました。

――工事概要――

工事名：大谷川上流第7・8・9床固改築工事

工事内容：砂防土工 1式

床固め工 3箇所（第7床固め・第8床固め・第9床固め）

根固め・水制工 1式

構造物撤去工 1式

仮設工 1式



(第7床固め 全景)

2. 安全対策

1) 第三者対策

工事のお知らせをかねて地元住民へ挨拶に行き、工事内容や工事開始時期などを説明して理解していただきました。

また、現場内の河川で魚釣りや観光見物客などへは工事を行っていることが分かるような工事標識を設置して、河川内に進入する第三者に対して危険性があることをアピールしました。

作業箇所では、工事看板や作業予定表を一般に分かるよう設置して作業内容が伝わるようにし、現場に近づく第三者へは、職員や見張り員が危険性を説明して近づかないようお願いしました。



(地元住民への挨拶)



(作業予定看板)



(注意標識の設置)

2) 土石流対策

新規入場時に現場内の避難場所・避難経路・土石流警報器の設置箇所を周知しました。

万が一土石流が発生した場合は、土石流警報器が鳴ってから何秒で危険な土石流が作業箇所へ到達するか。何秒以内に避難しなければならないか。避難訓練により警報器が鳴ってから土石流到達前に点在する作業箇所から避難場所へ避難する経路・場所・時間を認識させ、自然災害に対する意識の向上を図りました。



(土石流警報システム)



(避難訓練)

3) 重機災害

重機（バックホー）の死角から発生する作業員との接触事故・運転手の意識や合図者との感覚の違いによる操作ミス・重機同士の接触などが考えられました。

広場で重機操縦席からの死角を表示して、重機に乗ることのない作業員及び職員も重機操縦席に乗り、改めて死角の広さ・視認性の悪さを認識しました。



(重機死角の確認)

4) AED 講習・救急救護訓練

作業所内全員（作業員を含む）を対象に AED 講習を行い、事故や病気による思わぬ心肺停止状態に陥った時近くにいる職員や作業員がすぐさま対処出来るよう救急救命の実地訓練をしました。

実際に使用してみると意外と簡単に使用でき、作業所の誰でも使いこなせる事が実感出来ました。

救急救護でも、現場に担架を設置して事故等により被災し動けなくなった作業員（患者）を安全な場所に緊急輸送するなど、想定される緊急事態での対策・対処方法を確認しました。



(AED 講習)



(救急救護訓練)

おわりに

訓練により、「安全第一」とその時はわかりませんが、数日たつと近道行動（危険の可能性）を取る作業員が後を絶ちません。

毎日同じ工種でマンネリ化しやすい単純な作業の時、実施訓練をすることによって近道行動や安全行動の防止に効果があると思います。

現場に携わる作業員全員で危険の芽を摘むことや、危険な作業を行う時でもその危険性を取り除き安全で快適な職場（現場）になるよう管理することが大変です。

今後も工事の竣工にむけ、地域住民・作業員等コミュニケーションを大切にしながら安全管理に取り組んでいきたいと思っています。